



三好達治 ©週刊読書人

もっと
福井の魅力を
知ってほしい
から・・・

ふくいのもつ 魅力探訪

ふくいのお宝 ひとくちメモ

寄稿：福井県ふるさと文学館

VOL.04 三好達治 ～越前三国は心のふるさと～

三好達治の作品世界

三好達治は、1900年大阪に生まれ、1930年に第一詩集『測量船』を刊行し、抒情的な作風で当時絶大な人気を博した詩人である。次に紹介する詩「雪」や「土」を教科書で学んだことがある人も多いのではないだろうか。

雪

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。

『測量船』収録

土

蟻が
蝶の羽をひいて行く
ああ
ヨットのやうだ

『南窗集』収録

日本の風景を精選した言葉で詠い上げ、多くの優れた作品を残した三好達治は日本の近代抒情詩を代表する詩人と言われている。

三好達治と三国

三好達治は1944年、福井県坂井郡雄島村（現・坂井市三国町）の豪商森田家の別荘に疎開し5年間滞在、『故郷の花』『砂の砦』などの詩集を刊行した。また、中野重治や多田裕計、伊藤柏翠など福井の文人たちと交流し、三国文化圏を形成、越前三国を「心のふるさと」と語り愛した。

激動の時代の福井での生活は、三好にとって詩の革新や再出発の契機となった。三好が招いた則武三雄は、三好が去った後も福井に留まり、広部英一や荒川洋治に影響を与えるなど、後進の育成に努めた。

三好達治のうた

三好達治が作詞した歌は、今



『測量船』1930年 第一書房

も歌い継がれている。福井県民歌や大野高校校歌、三国高校校歌などもその一つだ。

それらの歌に、三好達治は福井の豊かな自然を織り込むとともに、新しい時代を担う若者たちへ激励のメッセージを込めている。

県ふるさと文学館では、生涯にわたり最上の言葉を求め、詩を詠い続けた三好達治の作品世界や足跡、三国での交流を紹介する企画展「三好達治展」を10月14日から12月17日まで開催している。この秋、三好達治の作品から、福井の豊かな自然や風土、根付いている文化をあらためて感じてみてはいかがだろうか。



三好達治旧居

お問い合わせ先

福井県ふるさと文学館

TEL 0776(33)8866